

フランス語学習における「分別的ノート整理法」の指導について

学芸学部 国際英語学科 高瀬 英彦

要旨：フランス語学習の初期にテキスト内容の指導とは別に、ノートの整理の仕方、いわゆる、「分別的ノート整理」を指導しないと学生に十分な理解が得られないことがわかった。理解が不十分なのは、①フランス語に内在する文法的性格からくるもの②市販のテキストの内容配列から来るもの③英語との違いを認識しないで、英語の延長としてノート作成するところからくるものなど、以上三点だろう。問題の解決は②教科書に散りばめられた文法事項の分散化を容認しつつそれを統合する整理指導の導入にあると思える。たとえばフランス語の名詞は男性・女性名詞にわかれるのに英語の単語帳のように、既出順に漫然と並べてそれでよしとしていては、混乱がおこり「フランス語は難しい」で終わってしまう。このさい、テキストにちりばめられた文法項目をあらゆる品詞に「分別」してフランス文法のシステムが見えるようになるノートの整理・指導法を提唱したい。

キーワード：フランス語学習、文法テキスト、文法読本テキスト、文法整理、分別ノート

最近の教科書カタログをみると内容別に『最・初級文法』『初級文法』『最・初級文法読本』『最・初級読本』『初級読本』『初級会話読本』『中級読本』『作文』『問題集』『リスニング』『歴史』『優しいよみもの』『シナリオ』『小説・物語』『手紙』と分類してあったり別の出版社のカタログでは次のようなくり方になっている。『初級総合教材』『ビデオ・DVD教材』『中級読み物・facile a lire・小説・物語・童話・エッセイ・論文・思想・神話・エチュード・フランス語学概論・ヨーロッパ学・多文化学』

初級クラスには、ストーリー性がある、週一回の授業でこなせる程度の文法項目を解説した『文法読本』が良いだろう。

「初級文法」テキストはストーリー性がなく、項目毎にまとまりすぎて初級者を対象にした授業には不向きだろう。文法中心の学習では、期待と不安を併せ持つ初級者に恐怖感すら持たせてしまう。6年間の英語教育（入試を中心にした英語教育）で文法中心に学んできた学生には、文法指向型がいて、この種のテキストは好都合かもしれない。しかし、文法家を養成するのが目的でない、コミュニケーションを重視する教養の外国語にこの種のテキストは不適格だろう。そこで、「文法読本」を選ぶことになる。

選定した『文法読本』がきまり、学生数が確定して

からは、テキストと学生の相性を見極め、必要なら印刷物を追加する準備をして、新たな授業プランをたてることにしている。ところが、ストーリー性がある文法項目もそこそことりいれていたテキストについて（週一回の授業でどこまでが必要な文法項目かは、編者に任せるとして）学生が文法項目を十分理解できているか検証したところ、ストーリーの理解はできていても、文法項目の理解、定着はみられなかった。その原因は教科書に散りばめられた「文法項目」とその「整理」の指導をなおざりにした結果だと思われる。

I) 参考までに、フランス語の「文法読本」をひとつ例にとって見たい。13課にわたってストーリー性は確保されているので問題にしない。目次のみを引用する。

（注：動詞関連項目は下線をつけ、話題には（ ）でくくり、冠詞項目は太字にした）

1. アルファベ・綴り字の読み方

2. 名詞の性・数

リエゾン・アンシェーマン

être

（国籍・職業・フランス人の名前）

3. -er動詞

否定のne (n') ~pas

定冠詞

- 数字 1～10
habiter・parler・étudier
 (都市・言語・学科)
4. 不定冠詞・否定文中のde (d')
 数字11～20
avoir・aimer
 (家族・趣味)
5. 部分冠詞
Il y a～
 Qu'est-ce que～
 Combien～
manger・boire・prendre
 (飲み物・食べ物)
6. 形容詞の性・数・位置
 所有形容詞
 指示代名詞
 数字20～60
 (形状・性格・性質)
7. 定冠詞の縮約・三種の疑問文
 人称代名詞の強勢形
 数字60～100
aller・venir
 (国名・行き先)
8. finir・faire
 quel ? quand ?
 (家事)
9. 近接未来・近接過去
 pourquoi ?
vouloir・pouvoir
avoir à～
 (乗り物・旅行・身体の部分)
10. 代名動詞
11. 指示形容詞
Il fait～
 (時の表現(週・月・季節))
12. 定冠詞の縮約
 命令形
 前置詞
Il faut～
 序数
devoir
 (様々な場所)
13. 複合過去①
 様々な否定
 中性代名詞 en

(趣味・通信)

14. 複合過去②
 中世代名詞 y
 様々な否定

文法項目がばらばらにふり分けられていることがみてとれる。ストーリー性を重視すれば文法事項は犠牲にならざるを得ない例だ。動詞関連らしきものには下線を、話題には()をつけた。たとえば、冠詞の項目(太字)に注目すると3, 4, 5, 7, 12課に配置されている。これは冠詞のページにまとめて整理するよう指示するべきだ。

Ⅱ) 「分別のノート作成法」マニュアル A. B. C...

- A

ルーズリーフ形自由形式のノートを8から9枚準備すること

- B

各ノートにタイトルをつける

- ① 発音・綴り字
 - ② 表現
 - ③ 名詞・代名詞
 - ④ 冠詞の類
 - ⑤ 形容詞
 - ⑥ 動詞
 - ⑦ 前置詞
 - ⑧ 副詞
 - ⑨ 文

空白部分には関連項目の注意事項以外書き込まないよう指示する。

あとからの書き込みに支障をきたすため。

- C

各ページの記入例

- ① 発音・綴り字(毎時間ごとに反復)
 - ・英語と違い日本語の発声に近いこと
 - ・母音字・子音字の峻別
 - ・音節の徹底
 - ・複合母音字の暗記(それ以外はローマ字的)
 - ・フランス語特有の綴り(-il=イヤ行)などの認識
 - ・語尾の子音字が読めないことの理解
 - ・A.B.C.(アー、ペー、セー....)の徹底
 - ・「あいうえお(ゆ)(う)」の発声の徹底
 - ② 表現(毎時間ごとに反復・小テストの対象)

・挨拶表現、熟語など、理屈抜きに暗記、習熟させるもの

③ 名詞・代名詞

(ア) 男性・女性名詞があること

(イ) 英語のように単数・複数があること（ただし単複同音の徹底＝語尾のsの扱い）

(ウ) 代名詞は一人称、二人称の確認と、英語には無いon, tu, ce (c')への注意書きが必要
あとの空白部分は単語帳として利用するが、英語のような単語帳は不可である。ノートの左列は男性名詞と訳、右列は女性名詞と訳とする。右側の大幅な空白部分は注意書きコーナとして確保。

④ 冠詞の類

類としたのは、冠詞以外でも「指示形容詞」「所有形容詞」「疑問形容詞」など名称は違っても用法は同じなのでこのページにまとめる。

たとえば以下のような表を作成させる。

男性単数	女性単数	男性複数、女性複数
un	une	des
le (l')	la (l')	les
du (de l')	de la (de l')	×
ce (cet)	cette	ces
mon	ma (mon)	mes
ton	ta (ton)	tes
son	sa (son)	ses
notre		nos
votre		vos
leur		leurs
quel	quelle	quels quelles

などノートの左に表を作らせる。必要に応じて表を追加する。右の余白部分は名称、訳、注意事項を書くために確保する。

()くくりは発音関係の注意事項と指示しておく。

⑤ 形容詞

名詞・代名詞の形や、内容を説明する言葉であることを確認する。名詞・代名詞に男性・女性の区別があることから、関係する名詞・代名詞と性・数の一致があることを理解させる。たとえば、小さいフランス語petitを例にするのがいい。petit, petite, petits, petitesのように男性・女性 / 単数・複数の四通りに変化する。カメレオンのようなものだととえるのもいいかも知れない。それ以外

は、比較級、最上級などが出るたびに追加すること。空白は例外などの注意事項のため、空白のまま詰めないで置くのは他のページと同じ。

⑥ 動詞

助動詞として多用するためêtre, avoirの大切さを明記させる。（英語の助動詞との違いを認識させる）

規則動詞（-er 動詞）はどんなものでもいから（たとえばcouperなど）活用モデルを明記させる。あとは多用する不規則動詞の活用表を列挙させる。パターンの理解を指導するか、暗記を強制しないことが肝要だ。

動詞と次の言葉グループとの接続についても注意事項として留意させることが必要だ。たとえば、英語では動詞の後、動詞の原型で接続する場合とto不定詞で接続する場合、直接目的語、間接目的語などだが、フランス語では動詞の後、＜動詞の原型＞ ＜à 動詞原型＞ ＜de (d') 動詞原型＞のパターン、＜直接目的語＞、＜間接目的語＞のいずれかで接続することを明記させるべきだ。テキストで散在する「様々な否定」表現も動詞のページに分別させる必要がある。

⑦ 前置詞

àとde (d')の用法に注意する以外の他の前置詞は単語として扱うこと。

⑧ 副詞

装飾品のようなもので、文章の流れをスムーズにするものだから、bienなど多用される副詞を増やすように指導する。

⑨ 文

文型の提示より、言葉グループの把握に留意させること。動詞を中心（核）にして

冠詞（形容詞）名詞 形容詞＝代名詞のグループと**動詞**と**冠詞（形容詞）名詞 形容詞**＝代名詞のグループなどの接続で成り立っていることを単純に明示すること。

まとめ：

以上、9枚のノートに分けて、テキストに分散する文法項目を整理する方法を示したが、初級の場合、例外の提示は出来るだけ避けて、アバウトな概略を明示して、整理の仕方を明示、指示することが必要だろう。将来興味に応じてノートが増えてゆくことを期待したい。最終的には自分の「文法ノート」が出来るはずだ。